大阪大学 21世紀懐徳堂 Event Report

■2010.10.10

マンガカフェ 7「手塚治虫を歩く〜中之島を中心に〜」

“手塚愛” に満ちた まち歩きとトークイベント。

関西における手塚治虫ゆかりの地を探る研究誌『虫マップ』を公開された田浦紀子さんをゲストに迎え、手塚治虫のメモリアル・スポットを巡るまち歩きとトークイベントを行いました。30 名近い参加者が 13:30 に大阪市立科学館前に集合、さっそく館内で副館長の加藤賢一さんに大阪の科学技術と手塚治虫の関係について、また手塚が愛したプラネタリウム「カールツァイス Ⅱ 型」の本体を前に詳しい説明をいただきました。その後、朝日ビル、石原時計店、除痘館跡（洪庵記念会緒方ビル）、適塾と、田浦さんの軽快な解説を聞きながら巡りました。まち歩きのメンバーには不思議な連帯感が生まれ、初めて会った同士なのに自然に世代も超えて会話がはずみました。

15:30 までにまち歩き隊はアートエリア B1 に到着、第 2 部トークイベント「大阪の街と手塚治虫」に合流。田浦さんはスライドを駆使し、手塚のマンガと実写風景を対比しながら、大阪における手塚の足跡をたどりました。フロアから、手塚が見た朝日会館の映画を私も見たという方、手塚の中学時代の同級生という方のお話も飛び出し、終始 “手塚愛” に満ちた楽しい会となりました。

マンガカフェは次の 12 月で一周年となります。すてきな企画を準備中ですので、今後の 21 世紀懐徳堂のお知らせにご注目ください！

（大阪大学 CSCD センター長・教授　金水 敏）

大阪市立科学館でカールツァイス II型プラネタリウムを見学

中之島の朝日新聞社前を東南へ

なにわ橋駅構内、アートエリア B1 にてトーク

■2010.10.12〜16　大阪大学総合学術博物館・特別展示

抵抗を縫う --- チリのキルトにおける触覚の物語

素朴な伝統手芸に込められた 女たちの葛藤と、 貧困や弾圧に屈しない力強さ。

展示されたアルピジェラは、平らな絵画のように見えますが、近づいてみると布の厚みとやわらかさ、手縫いの糸目から、キルト特有のぬくもりが伝わってきます。明るい色調と躍動感ある人々の様子は楽しい情景を描写したものだろうと思いきや、解説を読み進むにつれ、その予想は裏切られることに。描かれているのは、収集したダンボールをリヤカーで運ぶ貧しい暮らし、貧しい人々への炊き出しと食べ物を待つ子供の姿、行方不明になった夫や兄弟を捜している女性たちの政府への抗議のシーンだったのです。「1973 年のクーデター後、チリでは長く軍政が敷かれ、独裁体制下で貧富の差は拡大、多くの人々が政治犯として逮捕されました。その中で貧困地区の女性が中心となって製作したメッセージ・アートが、軍部独裁でふみにじられた生活の実態を国内外に伝えることになったのです」とキュレーターのロベルタさん。厳しい検閲があったにも関わらずこれらの作品が残ったのは、アルピジェラが女たちのとるに足らない布切れ遊びと見過ごされたから。発信力など持ち合わせていないと軽んじられた、女性たちによる力強い主張と抵抗は、作品に織り込まれ、世界各地をめぐり、チリの窮乏を伝えることになりました。来場者からは「カラフルな色遣いだからこそ重いテーマとの対比に胸が痛みました」「美術展ですべての解説を興味深く熟読したのは初めてです」といった声が寄せられました。（大阪大学 21 世紀懐徳堂　沢村）

企画者の酒井朋子特任助教（大阪大学 GCOE プログラム）と、キュレーターのロベルタ・パシックさん

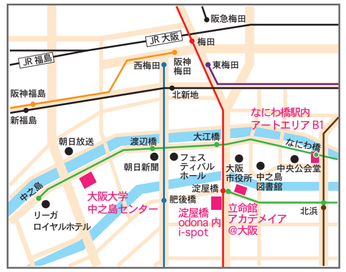
この企画は、大阪大学グローバル COE プログラム「コンフリクトの人文学国際教育拠点」の研究成果の一部を、展覧会という形態を通じて広く一般に公開する試みです。

かわいい人形が掲げている横断幕には社会政治的メッセージが

布だけではなく、木ぎれや鉛筆も縫い付けられ、立体感を出している

貧しいカルトネーロ（ダンボール収集で生計をたてている）をはじめ、勤勉に働く人々の日常を描く

（右）伝統ダンスを一人で踊る女たち。胸に留めた行方不明となったパートナーの写真が、愛する人の不在を表現している



■Handai-Asahi 中之島塾

会場／大阪大学中之島センター

大阪市北区中之島 4-3-53　**TEL. 06-6444-2100**

- JR 東西線 新福島駅 徒歩約 9 分
- JR 環状線 福島駅 徒歩約 12 分
- 阪神本線 福島駅 徒歩約 9 分
- 地下鉄四つ橋線 肥後橋駅 徒歩約 10 分
- 地下鉄御堂筋線 淀屋橋駅 徒歩約 16 分
- 京阪中之島線 渡辺橋駅または中之島駅 徒歩約 5 分

■大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-spot 講座

会場／淀屋橋 odona2 階 i-spot（アイ・スポット）

- **地下鉄御堂筋線 淀屋橋駅 10 番出口直結**
- 京阪本線 淀屋橋駅 3 番出口から徒歩 1 分
- 地下鉄四つ橋線 肥後橋駅 5-A 出口から徒歩 6 分
- 地下鉄堺筋線 北浜駅 2 番出口から徒歩 8 分

■大阪・京都文化講座

会場／立命館アカデメイア＠大阪

大阪市中央区北浜 3-1-18 島ビル 6F　**TEL.06-6201-3610**

- 地下鉄御堂筋線淀屋橋駅 1 番出口徒歩 1 分
- 京阪本線淀屋橋駅 14B 出口真上

■ラボカフェ

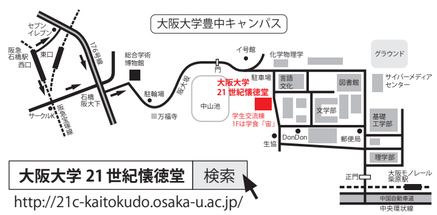
会場／なにわ橋駅内アートエリア B1

- **京阪中之島線 なにわ橋駅 地下 1 階コンコース**
- 京阪本線 淀屋橋駅または北浜駅から徒歩約 5 分
- 地下鉄 淀屋橋駅または北浜駅から徒歩約 5 分

● すべてのお問い合わせは ●

大阪大学 21世紀懐徳堂

TEL.06-6850-6443（内 2871）



大阪大学 21 世紀懐徳堂　検索

http://21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/

人類は進歩と調和したのか

大阪大学 21 世紀懐徳堂シンポジウム ー 街育て vol.3

大阪万博 40 周年の検証

「人類の進歩と調和」というテーマをもって開催された日本万国博覧会。
6421 万 8770 人を動員した日本で史上最大の万博だった。
「科学と未来への夢」が大きく膨らんだ瞬間であり
それ以後、科学や文明的には進歩したが
文化的、あるいは日本的に失ったものも大きいのかもしれない。
さて、万博 40 周年で、我々（＝大阪）は
街として、人として進歩し、調和したのだろうか？
大阪大学 21 世紀懐徳堂のシンポジウムは
〈街育て〉をテーマに展開しています。
はたして大阪万博から 40 年、大阪の街は「進歩し、調和して」
大きく育ったのだろうか。

日　時 ▶ 2010 年 12 月 12 日（日）14:00〜17:30
会　場 ▶ 毎日新聞社 大阪本社「オーバルホール」（地下 1 階）
定　員 ▶ 350 名（無料・要申込）
主　催／大阪大学 21 世紀懐徳堂
協力／大阪大学総合学術博物館
後援／独立行政法人日本万国博覧会記念機構、毎日新聞社

▶第 1 部「映像インタビュー」上映（60 分）
- 上田　篤　（建築学者・元大阪大学工学部教授）
- 小松左京　（作家・大阪万博テーマ館サブ・プロデューサー）
- 今井祝雄　（美術家・元具体美術協会会員・成安造形大学教授）

▶第 2 部「タウンホールミーティング」（120 分）
パネリスト　（50 音順）
- 磯　達雄　（建築ジャーナリスト）
- 小田マサノリ　（元現代美術家、メディア・アクティヴィスト）
- 嘉門達夫　（歌手・万博マニア）
- 竹村真一（文化人類学者・京都造形芸術大学教授）
- 西田隆政　（国語学者：甲南女子大学教授）

◎大阪大学からの参加予定者
- 鷲田清一　（総長・哲学者）
- 金水　敏　（CSCD センター長・教授）
- 菊地　誠　（サイバーメディアセンター教授）
- 小浦久子　（大学院工学研究科准教授）
- 橋爪節也　（総合学術博物館教授）
- 永田　靖　（大学院文学研究科教授）
- 司会：門村幸夜　（産学連携推進本部特任准教授）

【参加者募集中】

件名を「第 3 回 21 世紀懐徳堂シンポジウム申込」として、お名前、ご住所、お電話番号を明記の上、メールまたは FAX で、お申し込みください。

info@21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp　FAX : 06-6850-6449

お問い合わせは、大阪大学 21 世紀懐徳堂　TEL.06-6850-6443